

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501438
法人名	有限会社 芳光
事業所名	グループホームおくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町12-52番地
自己評価作成日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年6月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域とのつながりを大切にし、入居者さんが元気でゆったり笑顔で過ごせるように努めている。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所のすぐそばにある公園に散歩に出かけ、敷地内にある図書館で本を借りることを楽しみにしている方がいる。建物1階の、法人デイサービスの行事には、利用者が参加して交流されている。</li> <li>●事業所では、「食品衛生の点から」お刺身が食卓に上がることがないため、今年度は敬老の日に、配食サービス会社による「マグロの解体ショー」を実施し、みんなで刺身やアラの味噌汁等を食べてお祝いされた。利用者に好評だったようで、今後も続けたいと考えておられた。</li> <li>●利用者は、時代劇等、テレビを見るのがお好きな方が多いのだが、座りっぱなしにならないように、ゲームや体操する時間も設けておられる。薬の作用で、日中にも居室で昼寝する時間が長い利用者の方には、目覚めた時には居間でティータイムすることを誘うようにされている。利用者の希望で、居室の扉に鍵を付けている方がおられ、ご本人が居室を離れる時には、職員に施錠するよう依頼される。鍵をかけたことを確認すると、ご本人は安心されるようだ。</li> </ul>
--

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおくじま

(ユニット名) 和(なごみ)ユニット

記入者(管理者)

氏名 山内 キシエ

評価完了日 平成25年 5月 20日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  地域との関わり、その人らしく笑顔で生活できることを大切に、職員間で理念を共有している。	
			(外部評価)  事業所は、「私達は地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設をめざします。」と理念をつくり、玄関や事務所に掲示されており、さらに、毎年度、理念に沿って目標を立てて、理念の実践への取り組みをすすめておられる。管理者は、職員が日々のケアを振り返ることができるように、勉強会時に理念や目標にふれながらお話をされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  自治会に加入し、行事に参加させてもらっている。地域の方が入居されており、近所の友人が会いに来られている。	
			(外部評価)  秋祭りの太鼓台を利用者が喜ばれるため、事業所で10分長く滞在できるように自治会長がスケジュール調整をくださった。ボランティアの方が来られ、三味線の演奏を聞かせてくれたり、地元で伝わる歌を歌ってくださったり、利用者からのリクエストに応じてハーモニカを吹いて楽しませてくれている。毎年、看護専門学校の生徒2～3名を実習に受け入れておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  地域の方たちとの交流や運営推進会議などで介護の相談を受けている。看護学生の実習を受け入れ認知症介護を実習している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方の参加が多く、入居者さんの生活状況を知ってもらおうと共に認知症や介護についての話し合いをしている。委員の方の介護の経験なども話して下さっている。	
			(外部評価) 会議時には、事業所の状況や行事の報告を行ったり、「ターミナルケア」「災害対策」「認知症について」等、事業所として、気になることをテーマにして意見交換されている。「口腔機能と食事の加工の仕方」や「口腔ケア」を取り上げた際には、参加者から「ためになって良かった」と喜ばれた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 随時、連絡、相談をしている。運営推進会議にも参加してもらい意見をもらっている。	
			(外部評価) 介護相談員の訪問時には、居室で利用者とお話をされている。利用者から、事業所サービスについての感謝を聞き取って下さったり、食事の味付け、食べたいもの等についても探って下さっており、香川県に住んでいたことがある利用者から「うどん」のお話が出たことを報告いただき、みんなでうどん作りを行ったようなこともあった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居時に玄関に鍵をかけていないことを家族に説明している。見守りに注意し不穏が強いときは職員間でよく話し合い工夫しながらケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 毎月の勉強会時、職員から身体拘束や虐待に関して意見が出されたことをきっかけに、年1回、研修会を開催されている。「気になる職員の行動」があり、法人代表と管理者が相談して、今年度より居間の2ヶ所にカメラを設置している。現在は、気になる職員は退職されたが、「カメラの設置は継続していく」とのことである。職員は、カメラがある場所で休憩時間を取ることもあるようだが、「あまり気にならない」「慣れた」というような感想もあるようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			勉強会ミーティングなどで話し合い日常の言葉かけなども注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			勉強会で学習し、必要時家族に制度の説明、情報提供をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時、項目に沿って説明し疑問点を確認している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			ご家族来所時には必ず声をかけ日常の様子を伝えると共におくじまへの希望や家族の願いを聞いている。市役所の介護相談員さんも来所されており入居者さんの要望などを聞いてもらっている。	
			(外部評価)	
			ご家族には、毎月の送付書類とともに、手紙や写真を同封して利用者の日々の暮らしの様子を知らせておられる。遠方に住むご家族には、電話や手紙等で様子を知らせ、要望を聞くようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は毎日、入居者、職員と夕食を共にし時間を共有している。毎月ミーティングを行い職員の意見や要望を代表者に報告、対応している。	
			(外部評価) 勉強会やミーティングには、職員は全員参加するようになっており、都合により欠席した場合には、議事録で内容を確認したり、職員間で情報共有する仕組みを作っておられる。入居前から複数のおかずを混ぜて食べる」ことが習慣となっている利用者がおられたが、職員間で情報交換しながら、支援をいろいろ試して、一品一品味わいながら食事ができるようになられたような事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課を取り入れ、目標を持って就業できるように努めている。資格取得を推奨し必要な研修に参加出来るよう勤務を配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月勉強会を実施している。外部研修にも参加しミーティングで報告し職員間で知識を共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会の研修や新居浜市地域密着部会に参加しケアの勉強をしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族、担当のケアマネから生活の様子を聞き、入居前に本人とも面談し話している。	

### 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			家族の困っていることをよく聞き、ホームでの対応について話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			本人、家族の思いに添えるように柔軟な対応を心がけ、担当のケアマネとも連絡をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			生活を共にしているという思いで一緒に過ごしている。お互いに感謝し合う気持ちで接し常に「ありがとう」という言葉かけをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			日頃の生活の様子を伝え、本人が不安な時は会いに来てもらう回数を増やしたり、電話で話してもらったりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			ご家族がよく外出、外食に誘ってくださっている。地域の方が入居されており、近所の方が会いに来てくださっている。	
			(外部評価)	
			事業所のすぐそばにある公園に散歩に出かけ、敷地内にある図書館で本を借りることを楽しみにしている方がいる。建物1階の、法人デイサービスの行事には、利用者も参加して交流されている。ご家族が来訪された際には、居室でゆっくりお話できるようにお茶等を用意されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			職員を交え一緒に時間を過ごすことでトラブルにならないように配慮している。皆さんに声掛けしてゲームや体操を楽しんでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			退居時は今までの生活の様子や支援の状況を情報提供して、同じような生活が続けられるように支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			センター方式の記録を一部取り入れ「本人の思い」を細かく受け取れるよう努めている。その思いをケアプランに反映できるように心がけている。	
			(外部評価)	
			センター方式のアセスメント表を用いて、幼少期や結婚、子育て期～壮年期～老年期等の項目に分けて、当時の暮らしぶりや嗜好について情報収集されており、ご家族に記入をいただいたり、聞き取り情報収集されている。又、入居後に得た情報は、毎年更新して、介護計画につなげるようにされている。お誕生日の方には、食べたい物をお聞きして、ちらし寿司や炊き込みご飯を作っておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			入居時に家族やケアマネから生活歴やサービスの利用状況を聞いている。入居後も折に触れ本人からも話を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			一人ひとりの生活のリズムに合わせて出来ることに着眼しながら一緒にすることを心がけている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 入居者の思いを主体にし、家族の希望を聞きミーティングで職員で話し合いモニタリングし計画作成している。</p> <p>(外部評価) ご家族やご本人の希望を踏まえ各ユニットでミーティングを開き、利用者個々の担当職員が中心となって、ユニット全職員の意見を聞きながら介護計画を作成されている。手の腫れがひどく、お箸を持つのも難しかった利用者がおられたが、介護計画に採り入れながら手浴や、ハンドマッサージを支援して、改善傾向にある利用者もいる。利用者は「手がきれいになってうれしい。」と喜んでおられ、さらに、外出へも、以前より意欲的になられたようだ。ご家族が持ってこられたぬり絵をされる方や、字を書くのが得意な利用者には、職員が練習用紙と筆ペンを用意して字を書く機会を作っておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりファイルに日々の様子や本人の言葉を記録して情報を共有している。ケアプランに沿った記録を心がけている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 状況に応じ買い物や気分転換の散歩をしたりデイの音楽療法に参加している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近くの図書館を利用したり自治会の行事に参加させてもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) それぞれの主治医に診てもらっている。必要に応じ家族と相談し往診や協力医を紹介し医療機関に情報提供しながら適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医に診てもらえるよう支援されている。状態によっては往診を受ける方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師が常勤しており日常の健康管理をしている。血圧や認知症の症状など主治医に情報提供している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は介護要約を病院に情報提供し医療連携室とも連絡をとり相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化、終末期への取り組みについて説明している。重度化が予想される場合は早めに家族、主治医と相談し本人、家族の希望に応じケアしている。	
			(外部評価) この一年間では、1名の利用者の看取りを支援された事例がある。食事が摂れなくなった時点で、今後のことについて話し合い、ご家族は、点滴することを希望されたようだ。職員は、看取りを経験して、「利用者ご本人が最期をどのように迎えたのか」ということについて情報を集めておくことの大切さを感じられたようだ。管理者は、今後さらに「意識がなく言葉も出ない状態になっても、穏やかな表情で最期を迎えることができるように、家族、医師、事業所の信頼関係を築いていきたい。」と話しておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急車の依頼や応急処置マニュアルを作成している。日頃から勉強会で対応について話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回訓練をしている。訓練に参加できなかった職員も含め話し合いをしている。近くの職員、地域の方にも協力を依頼している。	
			(外部評価) 他県のグループホーム火災発生を機に、同月の運営推進会議では、消防署の方の協力を得て、市内のグループホームのスプリンクラーの設置状況や初期消火についてお話をさせていただく機会を作られた。参加していた地域の方には、あらためていざという時の協力をお願いされた。夜間想定火災訓練を実施した際には、消防署の立ち会いのもと、利用者も実際に参加して避難誘導の訓練を行ったり、初期消火訓練を体験された。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 今年度の目標を①やさしい声掛けをする②楽しく生活できるようケアする として声掛けの仕方など勉強会で繰り返し確認話し合っている。	
			(外部評価) 管理者は職員に、「早くして」、「お箸置かんと食べて」等、「職員の都合を優先した声かけ」や「決めつけの声かけ」をしないように話しておられる。そのような場面が見受けられた際には、管理者がその場で注意をされる。利用者は、時代劇等、テレビを見るのが好きな方が多いようだが、座りっぱなしにならないように、ゲームや体操する時間も設けておられる。薬の作用で、日中にも居室で昼寝する時間が長い利用者の方には、目覚めた時には居間でティータイムすることを誘うようにされている。利用者の希望で、居室の扉に鍵を付けている方がおられ、ご本人が居室を離れる時には、職員に施錠するよう依頼される。鍵をかけたことを確認するとご本人は安心されるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声掛けをし、したい時にしたいことが出来るように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、時間の制約はなく自分のペースで過ごしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好みの服装をしており、アクセサリをつけたりおしゃれを楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好調査をし、嗜好に合わせた献立作りをしている。おやつと一緒に作って楽しんだり、食事の準備や片付けと一緒にしている。	
			(外部評価) 週3日は、外部からの配食サービスを利用しておられ、食材が冷凍、真空パックで届くようになっている。事業所で温めたり、フライを揚げる等されている。ご飯と汁物は職員が手作りされる。週に4日は、職員が食材の買い出しに行き、利用者の好みを探り入れた献立で手作りされている。利用者は、もやしの根とり等の下ごしらえをしたり、テーブル拭きや下膳等できることを行なえるよう支援されている。事業所では、「食品衛生の点から」お刺身が食卓に上がることがないため、今年度は敬老の日に、配食サービス会社による「マグロの解体ショー」を実施し、みんなで刺身やアラの味噌汁等を食べてお祝いされた。利用者に好評だったようで、今後も続けたいと考えておられた。スパゲティー、カレー、丼物も「お箸で食べたい」という利用者が多いため、スプーンとお箸の両方を用意し、お好きな方で食べられるようにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食、食事量を確認し健康に注意している。食事、水分摂取が少ない時は本人の嗜好に合わせた食品にしたり持ちやすい食器に変えたりして工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。なるべく自分で出来るように声掛け見守りしながらしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄状況に合わせてさりげなく声掛けしトイレに誘導している。	
			(外部評価) トイレ介助時職員は、「自分だったらイヤと思うことはしない」よう心がけ支援されている。できる事はなるべくご自分で行なえるよう支援に努められ、トイレの扉を閉め、外で待ったり、頃合いをみながらさりげなくサポートして支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取に注意し乳製品を取り入れたり食物繊維がとれるようにポカリ寒天などを用いながら便秘予防している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞きながら入浴している。その日の体調に合わせてたり、声掛けのタイミングを見はからったりして入浴してもらっている。	
			(外部評価) 毎日午後から、利用者個々に週に2～3回入浴できるよう支援されている。浴室は、一般的な家庭用の浴槽となっており、シャワーチェアや足浴用の洗面器も置かれてあった。車椅子を使用する利用者は、「バスタオルを巻き」足浴しながらシャワーするようになっている。「お風呂に入りたくない」という方には、浴室近くまで行き、「ここまで来たので入りますか。」と声かけすると入られることもある等、職員は経験等の情報を共有して支援に取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自分のペースで過ごしてもらいつつ昼夜逆転にならないよう体操やゲームに誘い活動時間をもっている。安心して眠れるよう環境づくりに注意している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  薬の内容がわかるよう一覧表にしている。内服変更時は日誌に記録し情報共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  洗濯や掃除、花の水やりなどその人が得意であったり好きなことを職員と一緒にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  近くの図書館に散歩したり季節の花を楽しんだり、おやつを買いに外出したりしている。家族の協力もあり自宅に外出したり、外食を楽しんだりしている。	
			(外部評価)  職員と近所のショッピングセンターに出かけ、おやつを買ったり、好みの洋服を選ぶ等、買い物を楽しむ方がおられる。事業所周辺には、桜、つつじ等、季節の花の咲く公園がたくさんあり、日々散歩したり、数名で何回かにわかれてドライブに出かけておられる。お花見の時期には、お弁当を持参して楽しめることもある。	さらに、利用者個々のこれまでの社会性等も探りながら、個々が地域とつながりを持って暮らし続けられるような支援にも取り組まれてほしい。利用者の生活を地域の中へ広げていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  入居時に本人の希望に合わせて家族と相談している。自分で財布を持っていたり、預かったり臨機応変に対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  希望時に電話をかけている。携帯電話を持っており使用の度、職員が手助けしている方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 外出時の写真や花を飾り季節が感じられるようにしている。ベランダで花や野菜を育て、手入れや収穫を楽しんでいる。室温、湿度に注意しながら換気を心がけている。</p> <p>(外部評価) 居間の一角には畳スペースがあり、テレビを見たり、横になって休憩できるスペースとなっている。テーブルには、紫陽花が活けてあり、壁面は、ひまわりの造花でデコレーションして、季節感を演出しておられ、外出時やおやつ作りの写真を掲示されていた。又、アルバムを置いてご家族来訪時に見てもらいたいようなこともある。ベランダには、ペゴニアやミニトマトの鉢を置き、利用者が水やり等をされている。洗濯物たたみの得意な利用者が率先してたたんでくださっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) フロアに雑誌や歌本を置き、ソファーや畳コーナーなど自分の好きな場所で過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居時に馴染みの物を持って来てもらうよう声掛けしている。写真やダンス椅子など好みに合わせて置かれている。</p> <p>(外部評価) 利用者が気持ちよく眠れるよう頻りに布団を干すようにされている。洋服ダンスとベッドは備え付けとなっているが、カーテンは個々が持ち込み、各室、色柄等、好みのものをつけておられた。お孫さんの家族が手作りされたサイドボードを置いている方があり、調査訪問時、「作ってくれたんよ。」と笑顔で話して下さった。ご主人の遺影や仏壇のお供え物や水の取替えは、利用者がご自分で行なえるよう支援されている。編み物のお好きな利用者は、毛糸で編んだドレスを着せたお人形を持って来られていたり、自作の折り紙を飾っている方もあった。居室の掃除は主に職員がされるが、職員がモップがけを始めると、利用者が掃除機をかけてくださるようなこともある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 状況に応じて家具の配置や手すりの設置などを考慮している。</p>	